

平成 27 年度授業力向上支援プログラム実施報告

外国語科 高山寛之

1. はじめに

本年度、県立高校進学指導支援事業の授業力向上研究員に任命された。これは本県の各教科 12 名ずつの研究員がそれぞれ研究課題を設定し、年間をとおして研究を重ねまたは研修会に参加し、授業力向上を計るものである。ここに私の一年間の活動の報告をしたい。

2. 研究方法

研究の手立てとしては主に二つの柱がある。一つは、研究員個人が年度初めに授業の実際における研究課題を設定し、その課題に向けて年間をとおして授業展開の工夫を実践することである。そしてもう一つは、研究員が教科ごとに集まる研修会に参加して、各々の課題、授業における工夫、今後の展望等の情報を共有すること、さらには指導主事や研究主事の先生方からいただいた助言や指導を自身の授業展開に反映させることで、各自の指導法を改善するというものである。

3. 研究内容

以下ここでは、私個人が設定した研究課題の内容や経過等について説明したい。まず、研究課題の設定の対象となるクラスは、第 3 学年の普通科（大学・短大コース）とした。また、私と生徒との活動の内容によってこの一年を 4 つの時期に分けたい。第 1 期は 4、5 月の「課題設定期間」、第 2 期は 6、7 月の「自己表現期間Ⅰ」、第 3 期は 9、10 月の「自己表現期間Ⅱ」、そして第 4 期は 11 月の「研究授業とまとめ」である。

第 1 期

私は 4 月当初、研究課題としてあまりにも規模の大きなものを設定した。具体的には、「予習と授業をとおして深い理解を得られるような効果的な学習計画の立て方について」や「リトルティーチャー制度の効果的な授業展開方法について」という研究課題である。私自身の指導経験の浅さから研究課題の設定段階においてその規模を凶れずにいたため、そのような課題設定となったが、本年度 4 月から本校に赴任し本校で数回の授業をした後で、すぐにこれらの研究課題を改めるべきだと判断した。数回の授業をとおして、設定した課題の領域が広すぎることや私の担当する生徒が「自己表現」という活動を苦手としているのではないかとことを思うようになったことが理由だ。一例を挙げると、質問をしても手が挙がらないことがよくあった。4 月当初ということもあり私との人間関係がまだ十分に形成されていないことを考慮しても、簡単な答えを求める問いにも生徒はなかなか積極的な面を示さないことがあった。

第 1 期は「自己表現」というキーワードを課題設定の糸口として、模索しながら授業を展開した時期である。一方で、私の指導経験の中で初の試みでもあるスモール・トークの導入を行った。スモール・トークとは与えられたトピックについてペアで数分間、意見交換する活動である（資料 1）。自分の考えに対する理由を説明したり、相手の意見や考えを求めたりと数分の中にも会話術が必要とされる活動である。また、英字新聞の活用も積極的に試みた。英語学習者用の英字新聞の中から話題として身近な記事、教科書と関連のある記事を選び、宿題や課題プリントの裏面に印刷して生徒に提供した。対象となる生徒が翌年の 1 月には大学入試センター試験を受験する

ことやその後の2次試験に臨む可能性が高いことも考慮に入れ、教科書や参考書以外の英語にも触れる機会を設けることが狙いであった。さらに、授業中は私自身強く意識して英語を使用した。他人の前で自己表現することは、例え日本語を使用する場面でも簡単なことではない。ましてやそれが英語ともなれば相当な負担が生じることは想像に難くない。間違いを犯すことも含めて、英語を用いて表現することを教師側が示せば、生徒の英語使用に対する意識にも前向きな変化がおこるのではないかと期待も込めた。

スモール・トークを数回実施する中で、生徒が英語を使ってコミュニケーションを取ることに抵抗がない様子が見て取れた。算出された英語が機能的に、また文法的に正しいかどうかは別にして、彼らとその活動を嫌がっていることはないことを確信した。そこで、次のステップとして、6月の月上旬に生徒にプレゼンテーションを輪番制であることを提案した(資料2)。

第2期

このプレゼンテーションにおける生徒の目標は、自分の好きな物(体)についてそれを実際に示しながら2分以上で説明することであり、**Show and Tell** と呼ばれる活動である。そして私の狙いは、生徒に人前で自分の好きな物(体)を発表させることをとおして、自己表現活動を充実させることであった。

またちょうどこの頃、県総合教育センターに各研究員が集まり、各々の設定した研究課題や今後の予定などの情報を共有したり、県高校教育課指導監、指導主事、研究主事の先生方の講義を受けたりする研修に参加した。この研修の中で話題にあがったことのひとつがアクティブ・ラーニングであった。それに触発され、また対象となる生徒の自己表現活動を充実させるため、私は授業力向上員としてのこの一年の研究課題を「生徒が主体的に英語で表現する時間を確保する授業展開の工夫」とした。いかに教師側が少なく指示して、いかに生徒の自己表現活動の時間を多く確保するかが最大のテーマである。

第2期のプレゼンテーションでは「英語(文法や単語)は間違ってもいい。発表の途中でつまづいてもいい。」と生徒に伝えた。彼らが守るべきルールはただ一つで、英語を使って2分以上人前で自分の好きな物(体)について説明することである。そこには自分の殻をやぶり他人の前で自己表現活動をしてほしいという願いがあった。発表は毎時間名簿順に2名ずつ輪番制で行ったので、生徒はいつ自分が発表を行うか知ることができたし、この提案をしてから最初の生徒の発表まで10日あまりの時間をおいた。事前に私にスピーチ原稿を確認させることもしなかった。10名分の生徒のプレゼンテーションを見たあたりですでに私は彼らの潜在能力の高さに魅せられていた。聞き手の興味を引くためにプレゼンテーションを聞き手への質問から開始したり、物(体)を発表の最初から示さず、その見せるタイミングを工夫したり、身振り手振りを交えたり、黒板を使用したりとその出来映えと完成度は私の想像を超えていた。この生徒達はもっと成長する、私が授業にもっと工夫をこらすことが出来たら、更なる成長が期待できると確信した瞬間だった。

第3期

第2期のプレゼンテーションでは生徒の高い能力を知ることができた。ただ一方で、そこには彼らが持つ共通の課題点も見られた。具体的には、プレゼンテーション全体に動きが少なく、発表中ずっと同じ場所に立ち続けることや、発表の声のトーンがずっと同じで、メリハリ、強弱、

アクセントといった動と静が存在しないこと、発表の内容が単調でややおもしろみやユーモアに欠けていることの3点である。そこで、9月の中旬に再びプレゼンテーションをすることを生徒に提案した(資料3)。前回と比べ今回は、発表者に対する評価は用紙に印を付けて行うだけでなく、英語で感想を書く欄を設け、書くことでの自己表現の場も作り出した。感想を書くためには発表を注意深く聞かなくてはならない。発表者と聞き手の相互の関係が構築されると、よりよい活動になると考えたからである。また今回は、上に示した課題点をこちらの要望という形で生徒に提示し、第2期に行ったプレゼンテーションと比較してより良い発表ができるよう意識させた。これらの要望の中で日本人として最も苦手とするものは、いかに発表をおもしろくユーモアを含むものにするか(くだけすぎず、単調すぎず)という点であると考えられるが、2回目のプレゼンテーションは各生徒それぞれ工夫を織り交ぜた発表をしてくれた。第2期のものと比べて各段にその技術が高まったことは一目瞭然であった。

第3期における授業中の生徒の様子は、4月とは比べられないほど主体的、積極的であり、一つの問に対して同時に3、4人が挙手するという場面がよくあった。また、定まった答えのないオープンエンドの問いに対しても自分の意見を堂々と発表できるようになり、意見の対立をむしろ積極的に受け入れているような姿も多々見られた。

第4期

挙手が同時に起こるという生徒の変化は私にとっては期待以上のものではあったが、第3期に見られた生徒の特徴は、同じ生徒による挙手の頻度が高まったということだった。教室内は一見活動的に動いているかのようなようだったが、発言して授業に参加することをしない生徒も数名見受けられた。そこで、教室内の更なる活気を求めて生徒に **Two Challenges a Week** (以下、TCW) というテーマで彼らの積極的な言動を促した。これは一週間の中で少なくとも2回は授業で行動に出ようという目標である。行動とは、挙手すること、質問すること、有志として活動に関わることなどの行動を意味する。このTCWは生徒の中に大きな葛藤を生んだようであった。私は生徒の2回の回数を記録しなかったが、生徒自身はその週に2回行動をしたかどうかは意識していたようで、挙手しようとする意志を示そうかどうか心が揺れている様子が見られた。私はそういう迷いが芽生えたことはすでに教室内に新しい活気ができあがった証拠だと感じた。

11月には4月からの課題やこのプログラムの締めくくりとして、公開研究授業を実施した。授業は特に真新しいことはせず、普段行っている授業を公開した。生徒も緊張していたと思うが、1時間の授業をとおして積極的に動いてくれた。発言や挙手も止まることのないほど活発な生徒の姿が印象的だった。

4. おわりに

一年を振り返ると、第1期は課題設定に関して不透明で研究課題を決めきれずにいたが、対象クラスの分析を繰り返すことで課題や改善点を見つけだし、それに対する取り組みを形として残すことができたと考える。しかしながら、目の前の生徒は日々変化する。今後も生徒から目を離さず、彼らに合う最適な活動ができるよう研究を続けたい。

〈資料 1〉

Topics of Small Talk

1 学期

- Where is the place in Yakushima that you want to recommend me to go the most? 4/15
What is your hobby? 4/16
Which subject do you like best? 4/20
When do you want to get married? 4/22
Except club activities, what did you do during GW? 5/7
When is your birthday and is there anything that you want as a birthday present? 5/11
Who in the world do you respect the most? 5/13
What kind of TV program do you like best? 5/15
What would you like to do if you could have 30 hours in a day? 5/18
Which do you like better, hot summer in Yakushima or cold winter in Yakushima? 5/22
How was your day yesterday? 5/26
What is your plan for this weekend? 5/27
What is your dream? 6/5
What did you do for your father on Father's Day? 6/22

2 学期

- Which do you like better, fall or spring? 9/10
Which country would you like to go, China or South Korea? 9/14
How much pocket money do you want in the future? 10/20
What is your favorite yojijukugo? 10/21
Which do you like better, the sea or the sky? 10/22
How do you relieve your stress? 10/23
Did you enjoy Halloween? 11/2
Show your partner that you are happy, lonely, and surprised. 11/4
Which do you like better, sleeping or eating? 11/5
Where would you like to go if you had wings? 11/6
How was the last lesson for you? 11/9
What would you bring if you were told to live in an island where nobody exists? 11/10
Explain your partner a certain thing without using the name of it. 11/11
How was the Chinese group yesterday? 11/12
Explain your partner a certain thing without using the name of it. 11/16

Show and Tell

In this activity, you will show your favorite thing to your classmates and tell them what it is, why you like it, or the memory you have with it.

Your “favorite thing” MUST be a thing that you can bring into the classroom and show your classmates.

Your presentation MUST include:

- 1 the explanation of your favorite thing
- 2 the reason why you like it
- 3 at least one memory you have with it.

Also, your presentation SHOULD be longer than two minutes.

This activity will start from Tuesday, July 7th, 2015, two students in each lesson.

Evaluation

Speaker's name() Topic()

1. How was the speaker's voice?

Clear enough / Clear / Good / I can give you some advice

2. How was the speaker's eye contact and gesture?

Much enough / Enough / Good / I can give you some advice.

3. How was the content?

Well-organized / Great / Good / I can give you some advice

My name()

Show and Tell II

In this activity, you will show a thing that you want to let your classmates know because it is useful, convenient, or fun. You will explain what it is and how useful, convenient, or fun it is. You will also demonstrate how to use or enjoy your “recommendation.”

Your “recommendation” MUST be a thing that you can bring into the classroom and show your friends.

Your presentation MUST include:

- 1 the explanation of your “recommendation”
- 2 the demonstration of how to use or enjoy it
- 3 some body languages such as gestures, smiles, and eye contact – try to avoid standing at the same place during your presentation
- 4 humor – try to make your classmates excited

Your presentation SHOULD be longer than two minutes.

This activity will start from Tuesday, September 29th, 2015, two students in each lesson.

Evaluation

Speaker's name() Topic()

1. How was the speaker's voice?

Clear enough / Clear / Good

2. How was the speaker's eye contact and gesture?

Much enough / Enough / Good

3. Comments from me

Name()